

ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトの「株主・投資家情報」では、決算短信等のIR情報をご覧いただけます。

<https://www.kawada.jp/ir/>



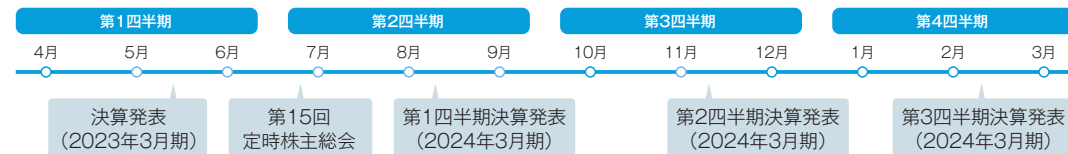
TOPページ



IRページ



IRカレンダー



Headline

●特集● 第3次中期経営計画 P11



KAWADA REPORT

呉羽丘陵フットパス連絡橋整備工事
(富山市)

第15期 株主通信

2022年4月1日 >>> 2023年3月31日



事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループのビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心して快適な生活環境を提供しています。



- ① 鋼製橋梁 鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
- ② PC橋梁 プレストレスト(圧縮力)を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
- ③ プレベーム橋 プレベームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
- ④ SCデッキ(合成床版) 鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
- ⑤ 床版取替え 既設橋梁の老朽化に伴う床版取替工事の実績を着実に積み重ねています。
- ⑥ ハーフプレキャスト 鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
- ⑦ 橋梁用伸縮装置 様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
- ⑧ 橋梁補修・補強 既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁へリニューアルします。
- ⑨ 建築鉄骨(製作・建方工事) 日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
- ⑩ 建築 住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
- ⑪ システム建築 短工期、低コスト・高品質で大空間を実現する平屋・多層階の工場・倉庫などの建物を提供します。
- ⑫ ハイパー・ブレース(座屈拘束ブレース) スレンダーな見栄えで、高い耐疲労性能を備えた耐震・制振用ブレースです。
- ⑬ プレキャスト建築梁・柱 鋼とコンクリートの合成梁(柱)です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
- ⑭ みどりちゃん(屋上緑化) 一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
- ⑮ Stand by みどりちゃん(壁面緑化) 植栽の入替が簡単で、効率的な貯水・水循環を実現した壁面緑化システムです。

- ⑯ エコマール(地下貯水槽) 雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
- ⑰ ヒト型2足歩行ロボット 自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
- ⑱ NEXTAGE(双腕ロボット) ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
- ⑲ ヘリコプター 報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運航しています。
- ⑳ 飛行機 東京(調布)と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
- ㉑ 土木・建築ソフト 建設用3D-CADや情報共有ソフトなどを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
- ㉒ 太陽光発電システム システム建築と併せての導入が可能で、建築から施工までトータルサポートします。
- ㉓ 3Dデジタル溶接マスクシステム 溶接者の視野をデジタル技術で鮮明に映像化。溶接業界の抱える課題の解決に貢献します。

KAWADA VISIONの実現に向け、 「川田ならではの」価値創造によって グループ全体で レジリエント企業を目指します。

株主の皆様のご厚いご支援のもと、当社グループは大きく変化する事業環境の中、次の100年に向けて、互いの能力を縦横に伸ばして、強固な連携と未来の成長のための土壌を育むべく邁進しております。

ここに2023年3月期の営業状況のご報告と、「KAWADA VISIONの実現を目指し、レジリエント企業に変貌する」をテーマに4月からスタートした第3次中期経営計画についてご説明させていただきます。

ぜひご一読いただきますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

川田 忠裕



Q 2023年3月期(第2次中期経営計画 最終年度)の営業状況をご説明ください。

A 公共事業分野の市場環境は堅調に推移し、ソリューションセグメントは継続的な増収増益となりました。

当期におきましても、新型コロナウイルス感染症や資材価格の高騰などにより舵取りが非常に難しい環境が続いた状況の中、売上高は1,180億円(前期比13.8%増)、営業利益は50億円(同21.6%減)という結果になりました。

これは鉄構セグメント、建築セグメントの進捗が堅調に推移したことで売上高は伸ばすことができたものの、営業利益については、鉄構セグメントにおいて前期に比べ設計変更の計上額が減少したことに加え、建築セグメントにおいて調達コストの上昇分を請負金額でカバーするまでには至らず、採算性が悪化した影響で前期より減少いたしました。

しかし、明るい兆しもあります。物流業界の2024年問題の対策に向けて、中部圏を中心に物流倉庫の市場増加が予想されている中、当社としても、これまで経験の少なかった多層階大型物流倉庫の建設にチャレンジし、多くの学びを得ることができました。

当社のシステム建築は、カスタム設計が可能ですので、様々な立地でより使い勝手のよい倉庫の建築が可能です。今後、コスト競争力を高め、さらにグループとして取り組んでいるAI技術やIT技術を組み合わせる形へと進化することで、伸びしろが大きくなる可能性を秘めていると考えております。

ソリューションセグメントは国土交通省によるBIM/CIM推進の流れを追い風に、ソフトウェア関連事業の売上高が伸び、サブスクリプション化による販売効率も大きく向上しました。その結果、売上高、営業利益ともに大幅にアップし、今、まさに時代のトレンドに乗った勢いを見せています。

その他に属する航空機使用事業は、この2~3年、コロナ禍で大変苦労した事業です。幸い、すでにリカバリーが始まっていて、離島定期路線や伊豆諸島間を結ぶヘリコプター「東京愛らんどシャトル」やヘリコプターの整備事業の業績が回復しつつあります。

なお、第2次中期経営計画の数値目標については、売上高は目標に届かなかったものの、営業利益、営業利益率、自己資本比率は目標を達成することができ(P.11ご参照)、一定の成果を上げることができました。

Q 第3次中期経営計画(2023年度~2025年度)策定の狙いと、重要課題についてお聞かせください。

A マーケットの変化に合わせてビジネスモデルを変革しグループ全体で強靱な企業経営を追求します。

今回の新中計では「レジリエント」という言葉を遣いました。「回復力」「弾性のある」などの意味で使われていますが、その概念を企業経営の中で活かしていくという発想です。

これまでの経営を考えると、景気の良い時代は業績が上がり、景気が悪くなると下がるという傾向が続きました。事業環境が悪くなり、売上が伸びなくても、それを跳ね返して成長していく、景気動向に左右されにくい企業集団になるというのが、目指す姿です。もちろん道のりは険しいですが、あるべき姿へのイメージは出来上がっています。

21世紀に入り、橋梁マーケットのあり方が大きく変わっています。新しい橋を架けるということから、効率よく、安全に品質のよい補修・保全や架け替えを求められる時代となりました。私たちは、市場環境の変化に合わせたビジネスモデルの変革と体質改善を進めなければなりません。

グループ各社を見ても、川田工業は業界トップレベ



ルのものづくりの会社です。川田建設は現場力に強みがあり、首都高速道路の仕事などで高い評価をいただいています。

今回、大きく成長したソリューションセグメントを担う川田テクノシステムは、半世紀ほど前、川田工業の電算センターとしてスタートし、長らく利益率の低い会社でした。それが今、高い実力をつけてきております。そのきっかけはサブスクリプション化に代表されるビジネスモデルの変化、そして提案型ソリューションへの転換です。さらに協働ロボットの製品化事業を行うカワダロボティクスについても、人手不足、生産性向上などの対策として導入ニーズは高まりつつあります。

このように川田グループは様々な分野で活躍する仲間がいて、みんなで力を合わせて成長しようとするマインドを持っています。各社の開発分野をバラバラに行うのではなく、定期的な情報交換を行い、「川田ならではの」価値創造によって新規事業に繋ぎ、全体がレベルアップしています。川田グループは幅広い可能性を持つ企業集団であり、正にここに川田グループならではの「レジリエント」が存在しています。

お客さまのご要望にお応えするのはもちろんのこと、今後は「もっとこういうこともできますよ」と、様々な提案をすることで付加価値を上げていく必要があります。すでにロボット技術やAI技術、ドローンなどを使うことによって、これまで人海戦

術でやっていたことを、少人数で実践でき、生産性を大幅に改善しています。

また当社グループはCO₂排出量の多い事業を行っておりますので、工場や工事現場での対策など、脱炭素に向けての真剣な取り組みを開始しています。グループ理念である「安心で快適な生活環境の創造」の実現に向けて、更なる事業の創造と責任ある企業経営に邁進いたします。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A よりよい社会のため、人々の暮らしのために役立ち社会に存在が望まれる企業集団を目指してまいります。

当社は資本コストを意識し、ROE向上を目指した企業価値向上を推し進めるとともに、株主の皆様への利益還元を重要施策としております。当期におきましては、業績を踏まえ、期初予想より130円引き上げ、1株当たり210円の配当とさせていただきます。

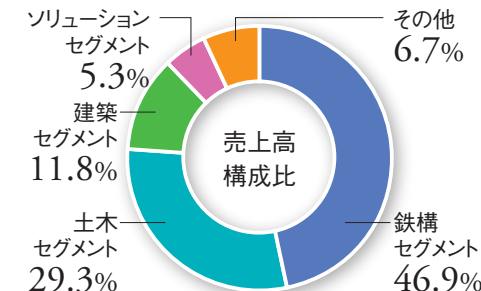
第3次中期経営計画における資本政策と株主の皆様への還元方針としては、基幹事業強化と成長事業への投資、研究開発投資、などの状況を勘案しつつ、連結配当性向30%を目安に、安定的な配当の実施を継続してまいります。

新型コロナウイルス対策は5類へ移行し、経済活動との両立に舵が切られましたが、今後も不透明な状況が続くと思われます。よりよい社会のため、人々の暮らしのために役立つことを続けるのが川田グループのミッションです。より高付加価値を生み出し、お客さまに選ばれ、社会に存在が望まれる企業集団になるべく、努力を続けてまいります。

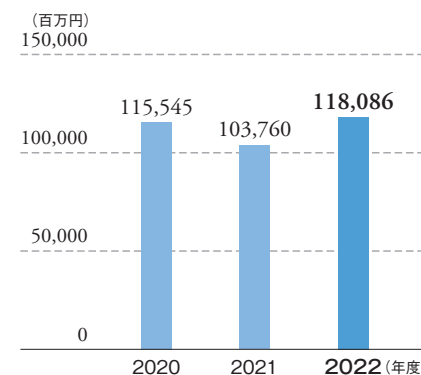
株主の皆様におかれましては、引き続き厚いご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

決算のポイント

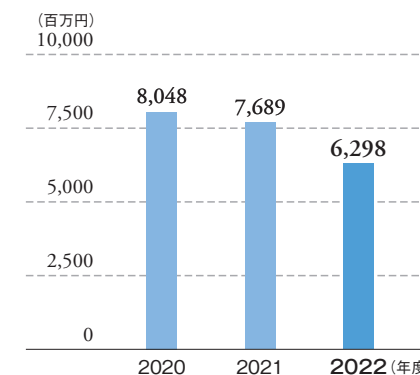
- 鉄構セグメントの鉄骨事業と建築セグメントが概ね順調に推移したことにより売上高は増加
- 鉄構セグメントと建築セグメントの採算性悪化により利益は減少
- 建築セグメントの減少を鉄構セグメント、土木セグメントでカバーできたことで受注高は増加
- 1株当たり210円(配当性向29.2%)の期末配当



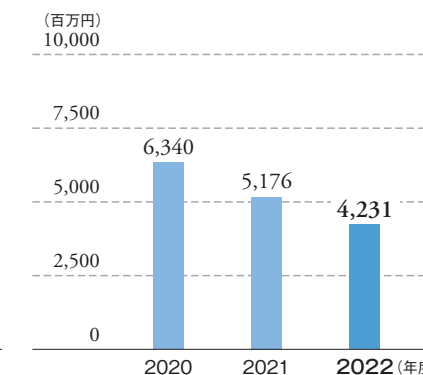
◆ 売上高



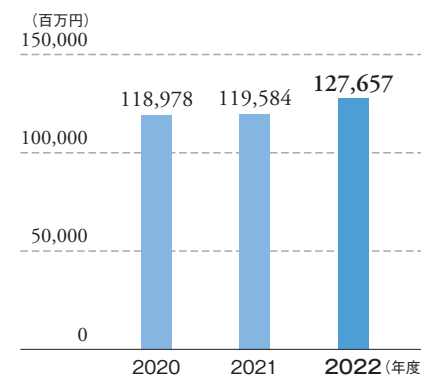
◆ 経常利益



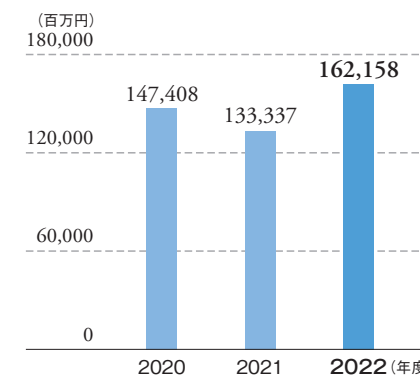
◆ 親会社株主に帰属する当期純利益



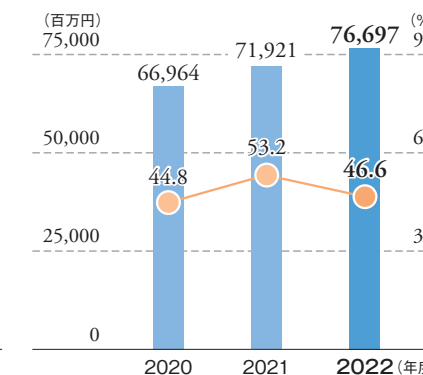
◆ 受注高



◆ 総資産

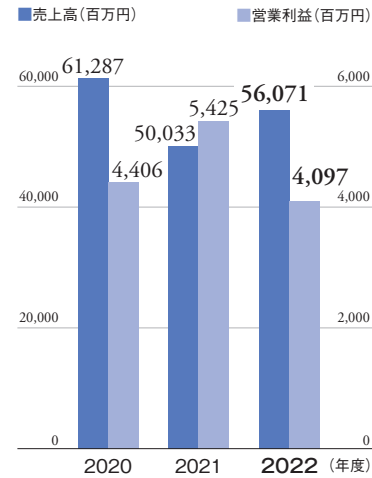


◆ 純資産 / 自己資本比率



鉄構セグメント

売上高 56,071百万円 営業利益 4,097百万円



売上高は、鉄骨事業において半導体関連施設を中心に大型工事が順調に進捗したことで56,071百万円（前連結会計年度比12.1%増）となりました。損益面では、鋼橋事業において当連結会計年度に竣工を迎えた工事が相対的に少なかったことに加え、鉄骨事業において一部採算性が悪化した案件が発生したことにより、営業利益4,097百万円（同24.5%減）となりました。

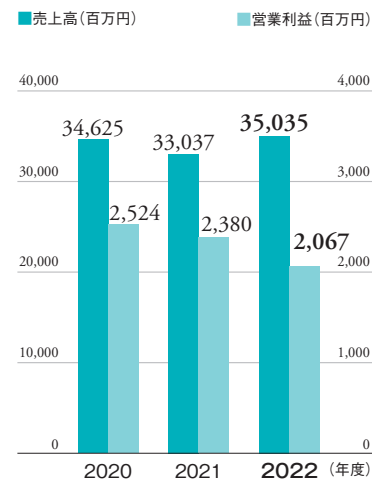
主な連結子会社：川田工業株式会社



東急歌舞伎町タワー(東京都)

土木セグメント

売上高 35,035百万円 営業利益 2,067百万円



売上高は、新設事業の進捗が順調に推移したことに加え、保全事業の設計変更を計上できたことにより35,035百万円（前連結会計年度比6.0%増）となりました。損益面では、更新事業において設計変更協議までに至らず原価が先行する工事が多かったことで、営業利益2,067百万円（同13.2%減）となりました。

主な連結子会社：川田建設株式会社

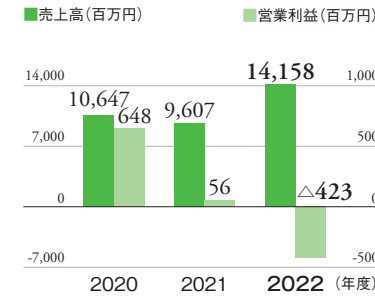


下郷大橋(福島県)

(注) P7-8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

建築セグメント

売上高 14,158百万円 営業損失 △423百万円



売上高は、大型工事が概ね順調に推移したことで14,158百万円（前連結会計年度比47.4%増）となり、損益面では、複数の多層階物流倉庫案件で原材料価格上昇などのコスト上昇を受けて採算性が悪化したことで営業損失423百万円（前連結会計年度は営業利益56百万円）となりました。

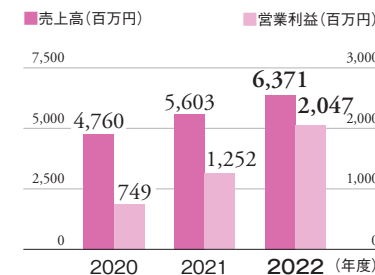
主な連結子会社：川田工業株式会社



(仮称)一宮土地建物株式会社物流倉庫新築工事

ソリューションセグメント

売上高 6,371百万円 営業利益 2,047百万円



国土交通省が推進するBIM/CIMを追い風にソフトウェア関連事業の売上が好調だったことに加え、サブスクリプション化による収益率の改善が図られたことで、売上高6,371百万円（前連結会計年度比13.7%増）、営業利益2,047百万円（同63.5%増）と増収増益基調を維持しました。

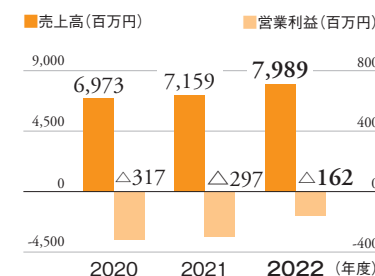
主な連結子会社：川田テクノシステム株式会社／カワダロボティクス株式会社



DXルーム

その他

売上高 7,989百万円 営業損失 △162百万円



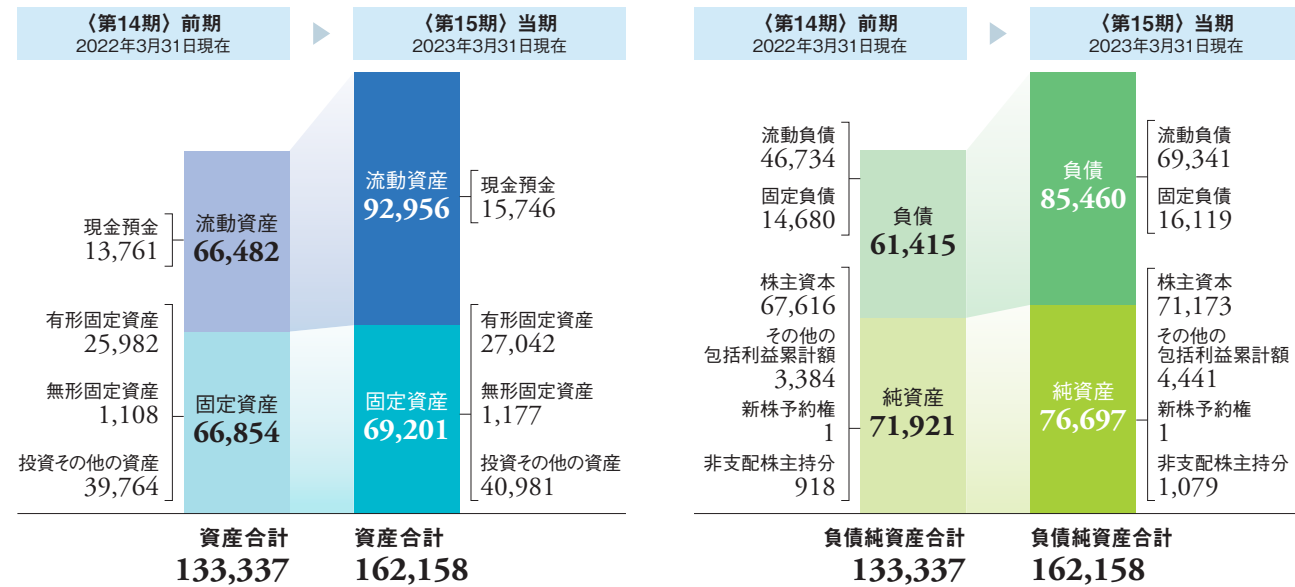
航空機使用事業において、定期路線の売上が回復したことやヘリコプターの整備事業の売上が伸びたことにより、売上高7,989百万円（前連結会計年度比11.6%増）となり、営業損失162百万円（前連結会計年度は営業損失297百万円）と損失幅が縮小しました。

主な連結子会社：株式会社橋梁メンテナンス／東邦航空株式会社／新中央航空株式会社

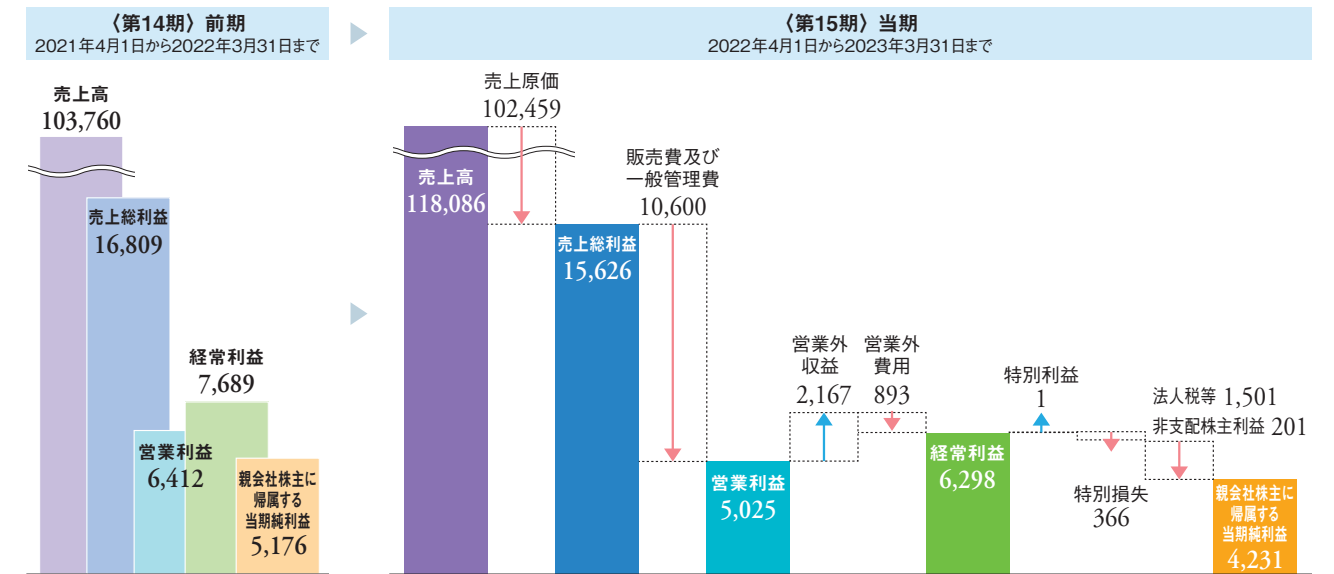


東京愛らんどシヤトル新運航機就航記念式典(レオナルド式AW139型JA239A号機)

◆ 連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)

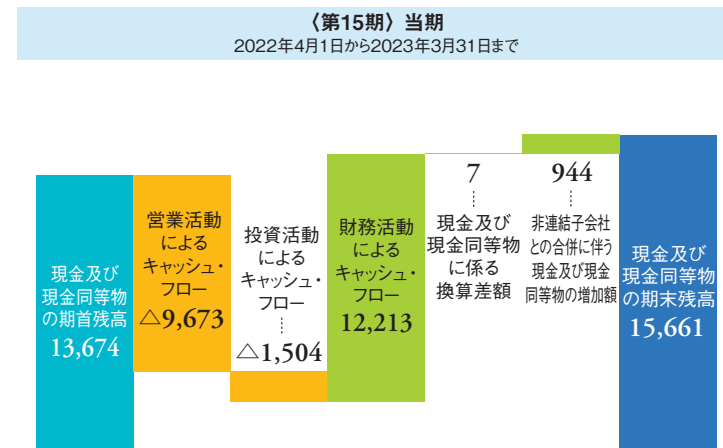


◆ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



◆ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)

(注) △印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

9,673百万円の減少(前期は20,391百万円の増加)となりました。これは主に、売上債権の増加等によるものであります。

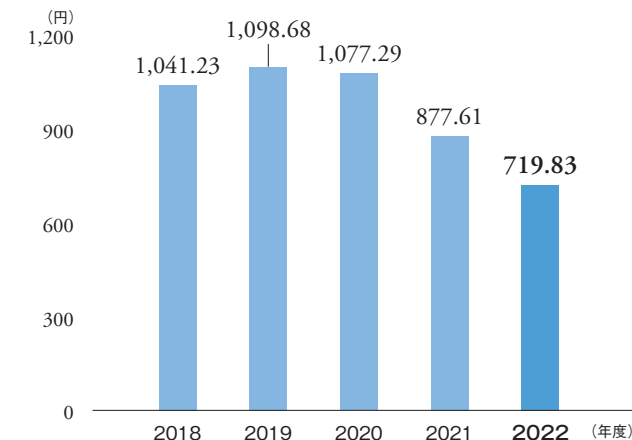
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

1,504百万円の減少(前期は1,948百万円の減少)となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

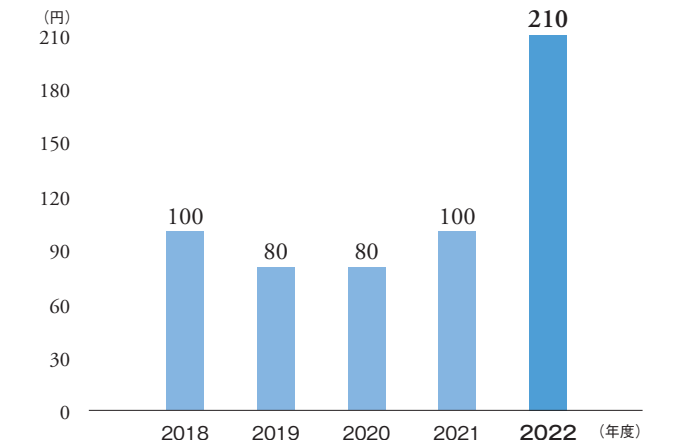
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

12,213百万円の増加(前期は15,811百万円の減少)となりました。これは主に、借入金の増加等によるものであります。

◆ 1株当たり当期純利益



◆ 1株当たり配当額

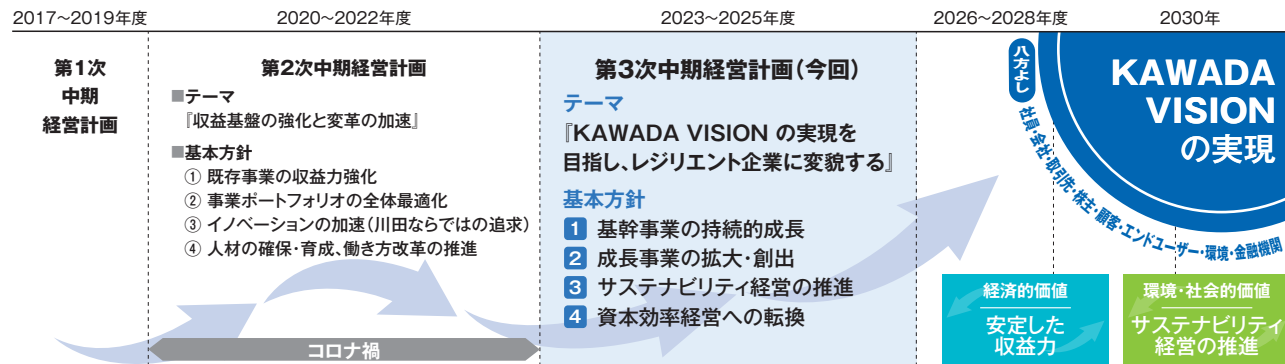


第3次中期経営計画

第3次中期経営計画の詳細は当社IRサイトにてご確認ください ▶



「第3次中期経営計画(2023年度~2025年度)」を策定いたしましたので、概要についてご説明いたします。



第2次中期経営計画の振り返り

第2次中期経営計画(目標)			第2次中期経営計画(実績)		
売上高	1,160億円	[3年平均]	売上高	1,124億円	[3年平均]
営業利益(率)	42億円(3.6%)	[3年平均]	営業利益(率)	56億円(5.0%)	[3年平均]
自己資本比率	3%以上改善	[19年度比]	自己資本比率	3.6%改善	[19年度比]

コロナ禍という厳しい事業環境の中、売上高は目標に届かなかったが営業利益(率)、自己資本比率は目標達成。

当社グループの経営課題

資本コストを意識し、ROE向上を目指した経営を推進するとともにそれを支える経営基盤の強化を図る。

第3次中期経営計画の概要

KAWADA VISIONの実現に向けて、川田グループの持続的な成長と持続可能な社会の実現の両立を目指していく。事業環境が大きく変化する中、真摯に経営課題と向き合い、迅速かつ柔軟に解決することで、レジリエント企業を目指す。

テーマ	『KAWADA VISIONの実現を目指し、レジリエント企業に変貌する』			
基本方針	1 基幹事業の持続的成長	2 成長事業の拡大・創出	3 サステナビリティ経営の推進	4 資本効率経営への転換

●事業方針

基幹事業	鉄構セグメント	<ul style="list-style-type: none"> 鋼橋事業: ①新設橋梁の受注力強化(ビッグプロジェクト参画) ②保全・更新工事の受注拡大 ③新規市場(海洋構造物、海外)へのチャレンジ ④DX・GXへの対応 鉄骨事業: ①生産ライン増強による事業規模拡大 ②発注者との更なる関係強化 ③建方ができるFABとしての川田ブランドの定着 ④コスト競争力強化
	土木セグメント	①国交省WTO案件のシェア向上 ②グループ連携による更新事業への対応 ③工事施工力向上(機械技術開発力の拡充、DX・CIMの推進) ④人財増強(人材獲得と育成)
	建築セグメント	①技術提案による安定した受注量の確保 ②見積・設計のDX化 ③多層階大型物流倉庫の手の内化(コスト競争力向上に向けた構造習得) ④協会会社KBS会の拡充
成長事業	ソリューションセグメント	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア関連事業: ①生産性向上 ②従来事業の付加価値増 ③新しい事業の創出 ④従来型ビジネスモデルの転換 ⑤企業文化の変革 ロボット関連事業: ①生産体制の確立とファブレス化体制の構築 ②販売代理店による拡販体制構築 ③APIソフトウェアの拡充 ④「ヒト型」ならではの市場への提案強化 ⑤ロボット技術活用による受託開発の強化

●サステナビリティ経営の推進(今後の主な取り組み)

全 般	マテリアリティに基づく施策とKPIの設定など	人 権	人権基本方針の制定、人権リスクの特定など
気 候 変 動	GHG排出量算定、削減目標の設定、削減への取り組み、TCFD提言に基づく情報開示など	技 術	大気圧プラズマを利用した新規CO ₂ 分解・還元プロセスの研究開発
人 的 資 本	人的資本戦略の策定、人材育成方針・社内環境整備方針の制定など	生物多様性	生物多様性と自社事業の関係性調査など

●数値目標

	第1次中期経営計画(実績)	第2次中期経営計画(実績)	第3次中期経営計画(目標値)
売上高 (3か年累計)	3,526億円	3,373億円	3,910億円以上
営業利益 (3か年累計)	172億円	170億円	186億円以上
当期純利益① (3か年累計)	165億円	157億円	156億円以上
当期純利益② (持分法投資損益を除く)	109億円	109億円	121億円以上
ROE① (最終年度)	11.3%	5.8%	8.0%以上
ROE② (関係会社株式除く)*	15.5%	7.3%	11.0%以上
配当性向 (3か年平均)	8.5%	16.0%	30.0%目標

※ ROE目標の考え方について 当社グループは持分法投資利益の影響を大きく受ける損益構造となっているため、事業利益に対する効率性を示す指標として、自己資本から関係会社株式相当分を除いたROEについても数値目標としております。

●資本政策と株主還元方針

積極的な設備投資と成長投資の推進による収益力の強化を図り、安定的な配当還元と機動的な自己株式取得により株主還元を拡大し、ROEの改善を目指す。

◆ 会社の概要 (2023年3月31日現在)

商号 川田テクノロジーズ株式会社
KAWADA TECHNOLOGIES, INC.

事業内容 鋼製・PC橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発等を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務

設立 2009年2月

所在地 【東京本社】
〒114-8563
東京都北区滝野川一丁目3番11号
TEL: 03-3915-7722
【富山本社】
〒939-1593
富山県南砺市苗島4610番地
TEL: 0763-22-8822

資本金 5,288,751,550円

決算期 3月31日

従業員数 91名(連結2,357名)

代表者及び役員 (2023年6月29日時点)

代表取締役社長 川田 忠裕

常務取締役 渡邊 敏

取締役 川田 琢哉

取締役 宮田 謙作

取締役(社外) 山川 隆久

取締役(社外) 高桑 幸一

取締役 岡田 敏成

取締役(社外) 高木 繁雄

取締役(社外) 福地 啓子

■ 監査等委員である取締役

◆ 川田グループの全体像



◆ 株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数 20,000,000株

発行済株式の総数 5,917,370株

株主数 5,223名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	654	11.13
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	300	5.11
株式会社北陸銀行	284	4.84
株式会社三菱UFJ銀行	265	4.52
川田テクノロジーズ社員持株会	223	3.80
川田工業協会持株会	209	3.56
GOVERNMENT OF NORWAY	149	2.54
富士前商事株式会社	141	2.41
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	113	1.93
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.70

※持株比率は自己株式(39,450株)を控除して計算しております。

◆ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

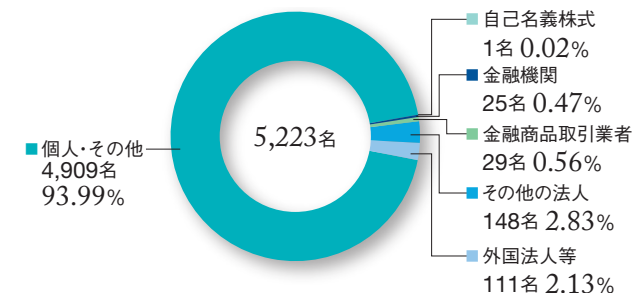
期末配当金支払株主確定日 3月31日

定時株主総会 毎年6月

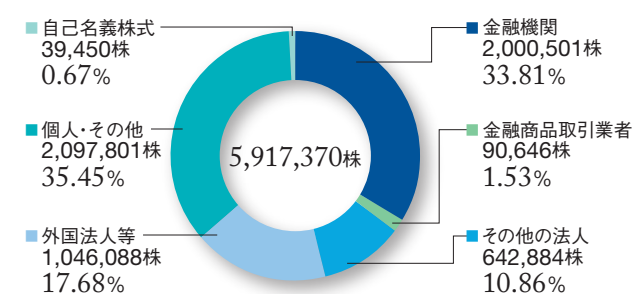
株主名簿管理人、特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 (連絡先)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
Tel: 0120-232-711 (フリーダイヤル)
(郵送先)
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株主数構成比



株式数構成比



上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載 URL <https://www.kawada.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に掲載いたします。)

- ご注意
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ります。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。